

令和7年2月27日

学校規模適正化調査特別委員会

阿久根市議会

1 会議名 学校規模適正化調査特別委員会

2 日時

(1) 期日 令和7年2月27日(木)

(2) 開会 午前9時57分

(3) 散会 午前11時53分

3 場所 議場

4 出席委員

濱	田	洋	一	委員長
高	崎	良	二	副委員長
大	田	基	次	委員
竹之内	和	満		委員
大	野	雅	子	委員
渡	辺	久	治	委員
川	畑	二	美	委員
白	石	純	一	委員
川	原	慎	一	委員
竹	原	信	一	委員
牟	田		学	委員
木	下	孝	行	委員
山	田		勝	委員

5 欠席委員

該当なし

6 職務のため出席した議会事務局職員

上 脇 重 樹 次長兼議事係長

松 林 俊 介 議事係主任

7 説明員

牧 尾 浩 一 教育総務課長

中 野 美 紀 教育総務課長補佐兼総務係長

濱 崎 忠 雄 学校教育課長

土 屋 雅 宏 学校教育課主幹兼指導係長

8 会議に付した事件

本市の小・中学校における適切な規模に関する調査

9 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

○ 本市の小・中学校における適切な規模に関する調査

濱田洋一委員長

ただいまから、学校規模適正化調査特別委員会を開会いたします。

この際、本市の小・中学校における適切な規模に関する調査を議題とします。

本日は、所管課に出席していただき、前回の委員会以降に行われた説明・意見交換会等の取組状況について説明いただき、質疑を行います。

所管課は入室してください。

〔教育総務課及び学校教育課入室〕

それでは、12月9日に開催した本委員会以降に行われた説明・意見交換会等の取組の状況について、所管課に説明を求めます。

牧尾教育総務課長

それでは、前回開催の当委員会における審査後の取組及び今後のスケジュール等について御説明いたします。

まず、現保護者への説明・意見交換会ですが、各小学校を会場として予定していた今年度2回目の会について、残る2校で実施いたしました。

11月末から実施していたこの2回目の会における主な意見等を申し上げます。

まず、阿久根小ですが、対等合併として、一旦歴史が閉じるのは寂しい気持ちである。制服は標準服がよい、特にジェンダーレスを考慮してほしい。

次に、大川小ですが、複式学級は逆に良いと思っている。

〔「もう少しゆっくりお願いします」と呼ぶ者あり〕

失礼いたしました。

まず、阿久根小ですが、対等合併として、一旦歴史が閉じるのは寂しい気持ちである。

制服は標準服がよい、特にジェンダーレスを考慮してほしい。

次に、大川小ですが、複式学級は逆に良いと思っている。大川はですね。小規模校を残してほしいとは思わない。早く統廃合を進めてほしい。という意見。本市、南の端にある学校として残してほしい。特に未就学児の保護者の意見は大事にしてほしい。

〔「すみません」と呼ぶ者あり〕

濱田洋一委員長

挙手を。

ちゃんと言ってください。委員長と言ってから。

白石純一委員

二つ以上のコメントは1人の人が言ったのか、それぞれ全然別の方、ある方、1人の方、1人の方というように分けてと言うのが、全く矛盾するようなことが続けてあると、1人の方がそれを言ってるのか、ちょっとよく分からず混乱しそうですね。

牧尾教育総務課長

基本的には、それぞれの意見を今、申し上げておりますので、1人の人が複数意見出されたものは同じような意見ですので、別々の意見を今、抽出して申し上げているところです。

ただ、分かりやすいように、ちょっと配慮しながら申し上げたいと思います。

竹原信一委員

今、白石議員が言った話は、別の人、今だったって言ってくれてるけども、この脈略がさ、つながったりひっくり返ったりするもんだから、どうもメモするのにも分けるべきなのが分かんなくなっちゃってるわけですよ。

牧尾教育総務課長

ですので、配慮しながら申し上げたいと思います。

〔竹原信一委員「お願いします」と呼ぶ〕

濱田洋一委員長

お願いします。

牧尾教育総務課長

最初からがいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

阿久根小から。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

濱田洋一委員長

いや、大川小学校の言われたところまではもうよろしいですよ、その後からでいいですよ。

牧尾教育総務課長

次に、西目小ですが、子供が現状に満足しているかどうかは目に見えない。

また、次の意見として、昨今の少子化により、各種スポーツクラブも近隣のチームで合併し、人数を確保して活動している。

また、別の意見です。

特任校を利用したいと思っても、将来の統廃合を考えれば選べない。特任校で今あっても、統廃合が進んでいけばそこを選ぶことができないと、いうような。

〔発言する者あり〕

〔川畑二美委員「委員長、すみません」と呼ぶ〕

濱田洋一委員長

先ほどから言ってますけれども、今ですね、説明をしておりますので、説明を聞いてから質疑ということにさせてもらいますけれども、今の段階でちょっと確認したいことがあれば、ちゃんと挙手を委員長としてから、指名を受けてからお話をさせてください。

〔川畑二美委員「はい、委員長」と呼ぶ〕

いいですか。よろしいですか。

委員長と言ってください。

川畑二美委員

最初の西目小学校の最初のほうが分からないんで、もう一度言っていただけないですか。

牧尾教育総務課長

西目小ですね。

〔川畑二美委員「はい」と呼ぶ〕

西目小から、またいきたいと思います。

西目小です。子供が現状に満足しているかどうかは目に見えない。

次に、昨今の少子化により、各種スポーツクラブも近隣のチームで合併し、人数を確保して活動している。統廃合も一緒じゃないかというような意見ですね。

次に、特認校を利用したいと思っても、将来の統廃合を考えれば選べない。

それでは、次に、山下小です。

一定の規模以下になれば統廃合は必要と思うが、現在は問題ないと感じている。

次に、もちろん現在通う学校が残ったほうがうれしい。

次に、まずは段階的にまとめればいいのではないか。

というような意見です。

続いて、鶴川内小に入ります。鶴川内小です。

小さい学校ほど主体的で対話的な学びができると思う。

次に、この会の開催について、周知が不足しているのではないか。

また、一方では、次の人ですけれども、会に出席しない人は決定に従うという認識でよいと思う。

次の折多小に行きます。

将来的には、小学校は阿久根市内で1校になると思う。

次の方です。小・中一貫校を推進するなら、学校施設を新設するなど思い切ったことをやってほしい。

次の意見です。10年後を考えると、今で脇本小にまとめるべきである。

続いて、脇本小です。

現在進める小・中一貫教育を、施設一体型にするのであれば、現三笠中の施設がよい。

次の意見です。他校のことになるが、実際の統廃合の前に1回合同で活動する機会を設けたらどうか。

といったように、賛否は様々ながら、積極的に意見を出される方々は一様に熱い気持ちを持っていらっしゃると感じたところです。

教育委員会といたしましては、より多くの皆様に、学校統廃合の目的、趣旨を御理解いただくべく、各会場とも今年度2回目の会を計画し、保護者の皆様が集まりやすいPTAの会合時にあわせて開催いたしました。各会場とも予想していたほどの参加人数とはならなかったのが実情であります。また、出席いただいた皆様は、恐らく毎回出席いただいている方々がほとんどであったというのが正直な印象であります。

出席者が少ない理由として考えられるのは、学校統廃合に関して積極的な賛成であるか消極的なものか。その度合いは別として、おおむね御理解いただき賛同得られている、もしくは、将来的にはおのずとそうなるので、ことさら会に参加する必要はないと考えていらっしゃるかと推察しています。

事実、保護者の中からも実際に同様の御意見をいただいたところです。

この学校の統廃合問題は、本市の直面する重要な課題と捉えておりますので、教育委員会といたしましても、今後の取組や手法にさらなる努力や工夫をしていきたいと考えています。

次に、休校中の田代小、尾崎小及び鶴川内中の対応等について御説明いたします。

この3校については、12月下旬に保護者の方や対象となる地域の方々を対象として、それぞれの会場にお集まりいただき、各小学校会場での説明内容に加え、各区長さんには、各区の意見の取りまとめを。また、校区の区長会長、あるいは代表の方にそれぞれ校区と

しての意見の取りまとめを依頼いたしました。

ここで、この会における主な意見を開催会場順に申し上げます。

まず、鶴川内中校区です。

取りまとめで反対であっても、結局、統廃合するのではないか。

次の意見。鶴川内中も小・中一貫教育にできないか。

次の意見です。前回、統廃合の話があった結果、特認校制が少なくなった。

次の意見です。生徒がゼロになるのを待ってもよいと思う。

次の意見です。統廃合には賛成であるが、時期、令和9年4月という時期を延ばしてほしいというものです。

次に、尾崎小校区です。

意見の取りまとめが必要か、余り意見は出ないと思うがといった意見。

次に、過去において、猛反対している人がいたが、本日は来ていない。無責任だと感じる。

次の意見です。阿久根小に統廃合された場合、自然災害時など緊急を要する送迎はどうすればよいのか。

次の意見です。統廃合はやむを得ないと考える。

次に、田代小校区です。

既に令和5年度に当面は休校でお願いしたいという要望書を出している。

次の意見です。地域の反発が強いのは、廃校後の活用策が示されないからである。

次の意見。大川中の例を参考にしたい。

次の意見です。休校のままではなく、地域住民が有効に使えるようにしたい。統廃合の活用について説明してほしい。廃校後の施設の活用について説明してほしい。

といった意見などでした。

これらの会の際に依頼した地域意見の取りまとめは、3月末を考えておりましたが、依頼もしておりますが、可能な校区はそれを原則としつつ、区の総会が4月末の区もあり、そのことを考慮すると、3月末では取りまとめに時間の猶予をいただきたいというような要望もあったことから、そこは各区等の実情に合わせていただき、柔軟に対応していくと回答しております。

したがって、対象となる3校区の意見集約は4月下旬から5月となるところです。

また、鶴川内中については、特認校制度を利用して、進学や転校を検討される御家庭もあると考えますので、教育委員会で統廃合の目標としている令和9年4月に対象となる現在の市内全小学4年生以上に対して、令和9年4月に新しい中学校、阿久根中学校ですが、との統廃合を行うことについて、意見をお聞きする調査を現在行っております。

最後に、新たな取組として、現在行っておりますのは、先ほど申し上げましたけれども、某地域の会場で出た、休校と廃校の取扱いの違いや手続に関して、また、廃校後の施設活用策を考えているかという御意見・質問を受け、それらについて地域住民の皆様説明及び情報を共有する場を設けることとし、1月末には尾崎校区で説明・意見交換会を実施いたしました。

田代校区については、現在日程を調整しており、同様の会を設けることとしております。

このことにより、学校統廃合を最終目標とすることなく、廃校後の学校施設を地域の有用なインフラとしてどう位置づけ構築していくか。

本市としても、将来に向けての教育のみならず、極めて重要な施策の方向性を見極めていくための足がかりとなったと考えております。

このような会は、今後、関係各所とも連携を図り、機会をとらえて重ねていくことが重要と考えております。

以上で私からの説明を終わります。

御審議のほどよろしく願いいたします。

濱田洋一委員長

所管課の説明が終わりました。

ただいまから質疑を行います。

質疑ございませんか。

竹原信一委員

今、時代としてですね、個別最適化の教育という方向に進んでいますよね。

A I を利用した、昨日か、システム一人一人に対応するような、それが激しい勢いで進んでいる環境でですね、場所を集約することによるメリットはそれほどあるとは思えないんですけどね。

むしろ、地域と連携、地域の暮らしの中に教育があるという状況。それはもう一旦、まとめてしまったら元に戻せないですよ。

そういうことを、本当に子供の教育という、箱物じゃないですよ。入れる箱としての学校じゃなくて、学びの場、子供たちのための、子供たち自身がそれぞれに育っていく自主的な体験をしていく、それこそが本当の教育の在り方じゃないですか。

どうもそれを脇に置いて、もう場所はそうするしかないんだからと市役所の態度というのは、もう変えないんだから。どうしてこうなるかなって。

子供たち自身にも直接に聞いたことがないし、聞くつもりもない。

いや、何だろう。

今後、巣立っていくんですよ子供たちは、この阿久根での体験を踏まえて。

私たちが、場所を提供しただけでは済む話じゃなくて、どういうふうに精神が、心が育っていくかということを中心に置かなきゃいけないと思うんですけど、どうも最初からそれが抜け落ちている気がしてならないんですよ。地域の人たちも、もう市がするんだから諦めると。

どうしてこうなるかなあと。悲しくてしょうがないんですけど。

濱田洋一委員長

竹原委員、今、御意見ですか。

竹原信一委員

そこら辺に関しては、答えというのをまだ1回も伺ったことがないんですけども、お話できませんか。

濱田洋一委員長

竹原委員。

〔竹原信一委員「向こうへ聞いてます」と呼ぶ〕

どこの部分ですか。

今、いろいろ話をされましたけれども。

〔竹原信一委員「子供のための教育環境が」と呼ぶ〕

ちょっと待ってください。

私が今、話をしていますから。

ポイントを、このことについて質疑をしたいということをちゃんと明確に言ってもらわないと、今、竹原委員は自分のお考えを述べられたということだけでしかないと思うんですが。

〔竹原信一委員「今までの統廃合」と呼ぶ〕

挙手をしてちゃんともう一度、はい。

竹原信一委員

これは、私はあなたと話すんですか、これ。

濱田洋一委員長

いやいや違いますよ。質疑ですから。

〔竹原信一委員「私が一旦質問しました。そして、教育委員会の方の質問ではなく、あなたの質問です、今。そうですよね、私は誰に向かって話をすればいいんですか。私の質問の仕方が足りなかったとおっしゃるんでしたら、教育委員会の方が、これについて何らかの答えをして、そしてそれについて私が詳しくお話しするということになるはずなんですけども、いかがでしょうか。答えられないんだったら」と呼ぶ〕

〔木下孝行委員「委員長が今、整理をしてるんだよ」と呼ぶ〕

〔竹原信一委員「今の段階で答えられないんだったらそう言って、教育委員会の方がお話しください」と呼ぶ〕

〔川原慎一委員「委員長ちょっといいですか。今回の委員会というのは」と呼ぶ〕

川原委員、ちょっと待ってください。

挙手をしてちゃんと指名を受けてから。

川原慎一委員

今回のこの委員会というのは、今あった御報告いただいたことに対してのまず質問を受ける場ですよね。

濱田洋一委員長

そうです。

川原慎一委員

そこを明確にさせていただいたら、今の質問はどうなのってということです。

濱田洋一委員長

先ほども繰り返し申し上げましたが、先ほどの竹原委員の質疑という捉え方ではなくて、自分の思いを話をされて、それについてどう思うかというような質疑をされたと思うんですが、明確に今ほかの委員からもありましたけれども、今こういうことに対してどうというような、はっきりとした質疑でないと、所管課としても答えることができないと思いますよ。

よろしくお願いします。

竹原信一委員

では、子供たちのための適正な規模とは何なのか。正確に厳密に、詳しくお答えください。

〔木下孝行委員「ちょっと待って。委員長、方針は教育委員会はまだ出して、載ってる。こういう時間はもう」と呼ぶ〕

〔白石純一委員「指名されてから」と呼ぶ〕

〔木下孝行委員「今から、考え方はどうかとか」と呼ぶ〕

〔白石純一委員「指名してから」と呼ぶ〕

濱田洋一委員長

今の竹原委員は学校規模適正化に関するということで話をされましたので、答弁をもらいます。

濱崎学校教育課長

適正な学校規模というお話でしたけれども、学校規模の標準は学級数により設定されており、小・中学校ともに12学級以上18学級以下が標準とされております。この標準は、特別の事情があるときはこの限りでないという弾力的なものとなっております。

竹原信一委員

子供のための教育環境をつくるのが教育委員会、今、適正化規模のね、そのこのところの意識が住民の方もある。

どうつくっていくかということをしてですね、もう決定事項でこれ変えないんですよと、この形は変えないんですよというところから始まってますか。後は時期だけの問題だとおっしゃるんですか。

牧尾教育総務課長

まず、誤解のないようにといったところですけども、決してその物理的にまとめようということではなく、やはり一定程度の人数が集まらなないと良好な教育環境を構築できないといったところが大前提にあると思っています。そのために、学校統廃合を進めるわけであって、もちろん進める中においては、各地域の意見、保護者の意見、あるいは地域の方々の意見をお聞きして、その中で柔軟に対応していくべきものと考えますけれども、私どもとしては、今計画しているものが最良のものと考えますので、その御理解を図っていききたい。そのために説明・意見交換会を開催している。

その中で、新たに、休校と廃校の違い、定義の違いで廃校後はどのように活用していくのかということがクローズアップされましたので、そのことについて我々も整理をしながら、今まではこちらから主導することなく、そこはむしろ避けてまいりましたけれども、それは、官民一体となって考えていくべきものですねといったところで、今、その意見交換会を尾崎校区では先ほど申し上げました。実施いたしました田代校区でも、今後調整を図って行っている最中というところで考えておりますので、整理して最後に申し上げますと、我々は、まずは理解を求めていききたいと思っております。

竹原信一委員

今最初、お話いただいた住民の方の発言の中を見ているとですね、まだその統廃合が進められるんだということを認めてもいけないような感じの人たちも、反対の方々もいらっしゃるという状況を説明されました、話をされましたので、それに対する妥協というか、統廃合を中止するということはある得ないと。それは最初から言うべきじゃないですか。そして、それを変更するというか、その過程でいろんな方向、廃校したものについては一緒に考えていきたいと思います。

スタンスはそこなんですよ。変えられることは。

牧尾教育総務課長

繰り返しになりますけれども、最良の計画、計画が最良のものとして我々は進めており

ますので、地域の方々の意見は私は感じる場所ですけれども、我々はもちろん、教育の場であるということが1番優先すべきものであると思います。

一方で、地域の重要なコミュニティーの拠点であった学校が廃校となるのは、やはり地域の方々は忍びない、そういったところでの意見も少なくないというのも事実であります。

そういったところをどのように丁寧に説明して、基本は教育の現場であるという施設が学校なんだということを御理解いただきつつ、とはいえ、廃校後どのようなインフラとして活用していくのかというの、あわせて考えていきたいということで、こちらは意見交換会を今後もやっていこうと考えているところです。

竹原信一委員

表現が、もう統廃合は決めたことだって、変えるつもりはないというのをはっきり言わないもんだから、皆さんがまだ、変な期待と言うか、市の方向とは違う発言が出たりしてるわけじゃないですか。もう変えないという前提で言うんだったら、それ言わなきゃいけないじゃないですか。

牧尾教育総務課長

これまでもお答えしてるとは思いますけれども、決定事項ではないと思ってますし、そう言った覚えもありません。ですので、計画としてこういったことを考えておりますということで御理解を今求めている段階であって、統廃合はしますよっていうふうな言い方はなくて、統廃合をしたいと考えておりますということです。

もちろん、10人が10人、100人が100人の賛成を得ることは、これはもう極めて不可能に近いものだと思います。反対の方が、猛烈な反対をされてる方が、我々の説明によって大賛成に変わるのかというのはこれはもう、ほぼほぼあり得ないことでもあると考えますけれども、そういう方々にも、我々は決してただ単に、統廃合ありきで進めているんじゃない、その背景には少子化があり、一定の人数を集めた中でやる教育こそが良好な教育だと考えるからこそ、今進めているんだということを我々は熱意を持って伝えたいと思っていますところでもあります。

白石純一委員

意見交換会、つまり意見を交換する目的のはずなんですが、今課長がおっしゃられたのは理解を求めるためだと。教育委員会の方針、計画を理解してもらうためだと。これは既に、意見交換会という意見交換の目的、主目的とはかけ離れているわけです。したがって、そこがまず矛盾しているのではないかなと思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

牧尾教育総務課長

おっしゃるように、言葉尻として、その説明・意見交換会という、意見交換会にスポットを当てれば確かにそういうことになろうかと思いますが、決して我々は強引に進めようと思ってやってるわけではなく、いいと思うことを、説明していることを今、申し上げてるわけであって、意見交換会の中でも強引に進めるわけではありませんというのはお伝えして、その中で意見を聴取して、そこには一定の回答もしておりますし、その場で回答できないものについては持ち帰って検討する、そういったことを繰り返しているわけがあります。

白石純一委員

言葉は大事ですね。

特に行政の場合は、意見交換会といったら意見を交換する場であって、教育委員会の計

画を理解を求める会でしたら、そのように教育委員会の方針、統廃合に理解を求める会としなければ、会の目的が市民に誤解されるわけです。

次の質疑ですが、先ほど参加者も多くないので、おおむね賛同していると推察している。非常にこれは乱暴な、行政として市民をないがしろにしている考え方だと思うんですね。個人的にそういう考えをお持ちになれるのはいいですよ。しかし行政として、参加者が少ないからおおむねそれに賛同してもらっているというのは、私は問題発言だと思いますが、そう思われませんか。

牧尾教育総務課長

これは個人的な見解、意見というよりも、この会の中で参加された保護者の方からも実際そういったお声もいただいております。

この間、数年にわたってこういった会を繰り返し開催しておりますので、その中で一定程度のやはり周知はなされているものという判断の下で申し上げたところであります。

白石純一委員

いずれにしてもですね、今のような発言は、私は市民に誤解を招く、市民に大変失礼な考え方だと思います。

また、こういう発言もございました。

殊さら参加しなくても、ちょっと正確には記憶してませんが、殊さら参加しなくても、方向性は決まっているんだから、参加しなくてもいいんだというふうに推察しているというような表現がありました。もう一度その点、そのところを読み返してもらっていいですか。

牧尾教育総務課長

先ほど、冒頭の説明で確かにそういう説明をいたしました。これは説明の中にも触れたと思いますけれども。

〔白石純一委員「そこを読み直してください」と呼ぶ〕

〔竹原信一委員「委員長、木下委員の発言には注意しないで」と呼ぶ〕

〔木下孝行委員「何をよ」と呼ぶ〕

〔発言する者あり〕

濱田洋一委員長

静粛にお願いします。

牧尾教育総務課長

確かにそう申し上げました、説明いたしました。

〔白石純一委員「委員長、委員長」と呼ぶ〕

読めということですか。

濱田洋一委員長

先ほど説明された文面をもう一度読んでいただきたいと。

〔牧尾教育総務課長「そういうことですね、失礼いたしました」と呼ぶ〕

牧尾教育総務課長

大変失礼いたしました。読み上げたいと思います。

教育委員会といたしましては、より多くの皆様に、学校統廃合の目的、趣旨を御理解いただくべく、各会場とも今年度2回目の会を計画し、保護者の皆様が集まりやすいPTAの会合時にあわせて開催いたしました。各会場とも予想していたほどの参加人数とはな

らなかったのが実情であります。また、出席いただいた皆様は、恐らく毎回出席いただいている方々がほとんどであったというのが正直な印象です。

出席者が少ない理由として考えられるのは、学校統廃合に関して積極的な賛成であるか、消極的なものか、その度合いは別として、おおむね御理解いただき賛同を得られている、もしくは、将来的にはおのずとそうなるので、殊さら会に参加する必要はないと考えていらっしゃるかと推察しています。

事実、保護者の中からも実際に同様の御意見をいただいたところですよ。

白石純一委員

参加された方がそういうのはその方の自由ですけれども、教育委員会としてのコメントとしてですね、おおむね殊さら参加する必要はないと考えていると市民がそう思っていると、一部の市民はそう思ってるかもしれないけれども、それが市民の大多数なのかどうかは、それは分かりません。

そこで、おっしゃられたように本当に少数の方しか来られていないと思います。そこでしっかり意見を、もちろん網羅するのは難しいです。

したがって、私は、これはよその自治体でもよくやられているんですが、全ての保護者、そして、その地区の方に、皆さんにアンケートを取るといってないと、なかなか把握し切れないのではないかと思います、そうした考えはございませんか。

牧尾教育総務課長

アンケート調査ということについては、これまでも過去においてそういった取組もやっておりますし、また今回においては、鶴川内中についてということは、全小学校の4年生をお持ちの御家庭に文書でアンケート調査を先日、お渡ししたところです。

それは、なぜかという、鶴川内中が特認校制度を設けておりますので、今後、そこに行こうと考えていらっしゃる方もいるのではないかとということ、4年生以上を対象としております。

またあわせて、各地域の方々にも区長さんを通じて、御意見をいただいて取りまとめを今、お願いしているところです。

白石純一委員

各小学校と鶴川内中を対象に説明会・意見交換会と称される、中身はどうか分かりませんが、されたということですが、これらの全ての会に学校教育課長、係長は出席されていたんですか。

濱崎学校教育課長

出席はしていません。

教育長が参加しておりますので、その必要はないと考えております。

白石純一委員

これは前も申し上げたんですが、参加するべきだと提案しました。

それを聞かれなかったということですが、教育長は本当に現場ではないわけですよ。より現場のことを代弁できるのは学校教育課の方々ですので、果たしてそれで、当然、学校の現場に関する質問も出たと思いますけれども、それに教育長がつぶさに答えられるとは思いませんので、出られなかったことは問題ないというお考えでしょうか。

濱崎学校教育課長

はい、問題ないと考えております。と申しますのも、学校教育課の実情と学校の実情と、

その都度、報告もしておりますし、教育長は教育のプロであると考えておりますので、私が出るものと何ら変わりなく、教育長が出席すればよいと考えております。

濱崎学校教育課長

あと、教育長の配慮でもあると考えております。学校教育課の実情として業務が多いので、それに対しての教育長の配慮だと考えております。

牧尾教育総務課長

すいません、補足で答弁させてください。

過去においては、必ずしも学校教育課が課長含めですね、出席されていないということではなく、やはり、その機会を捉えて参加する中で、意見交換会もやっているっていうのが過去においての実情です。

ここ2年間は、私が2年目ですけれども、学校教育課は参加されていないというのは事実でありますけれども、過去においては参加していたということ。

それと、白石委員も傍聴に来られましたのでお分かりのことかと思っておりますけれども、先ほど学校教育課長から申し上げましたとおり、教育長が出席の下で、学校現場の質問についても、それはしかるべき回答をしているというふうに考えております。

渡辺久治委員

先ほど8番議員のやりとりの中でですね、取組の今後の予定は、決定事項ではないということをおっしゃったんですけども、いみじくもですね、決定事項ではないと言われました。であるならば、今後ですねPTAとか保護者とか、それから議会とのやりとりとか、今後の学校、いろんな在り方に、ちょっと見てですよ、令和9年、令和10年に統廃合するとか、それから廃校にするとかと決めてありますけれども、それをですね、その日程の変更とか、廃校から休校への変更とか、そういうことは可能性はあり得ると判断してよろしいですね、決定事項ではないんだから。

牧尾教育総務課長

はい、そこはおっしゃるとおりあり得ることではあると思います。

竹之内和満委員

基本方針の変更はもうないというふうに判断されているのか、先ほどおおむね賛同を得られているという立場だったと思いますが、それはいかがでしょうか。

それと、基本方針というのは、新阿久根小学校、新阿久根中学校、1校ずつしか残さないという基本方針がそのままなのか。

それをお聞かせください。

牧尾教育総務課長

先ほど、決定じゃない、そこはあり得ますというような答弁をしたところですけども、もちろん基本方針は、今変わっていないと思っております。

そのような答弁でよろしいでしょうか。

竹之内和満委員

実際、期限が迫っていますよね、今からできるのかということですね。いろんな意見を聞いても賛成意見、反対意見、どちらともとれる意見、もうそれしか出ないんですよ。その中から基本方針の変更に至るまでには、今のところ至っていないというふうに思えるんですが、どうでしょうか。

牧尾教育総務課長

今、各区長を通じて意見を取りまとめをお願いしておりますので、それが先ほど説明したように、4月下旬ぐらいには出そろうのかなと思っております。

それを基に検証して、着手すべき作業は着手、速やかに着手していきたいと考えております。

竹之内和満委員

分かりました。

今までいろんな話は出るんですが、小規模校を残したらどうでしょうかという意見はずっと根強く残っているんですが、それに対して検討は少しでもされたんでしょうか。

牧尾教育総務課長

その件に関しては、今意見をいろいろ伺っているところですけども、それを段階的にですとか、いうことは具体的には考えておりません。その中で、今、先ほど申し上げたその意見の取りまとめの中で、また、検証に値するものであれば、そういった作業も出てくるのかなというふうには思います。

現段階では、小規模校を残すという計画はございません。

竹之内和満委員

もう何年も前からそういう小規模校は残してほしいという意見は出てたと思うんですけども、もう基本方針にそれは載ってない、変えないということでもう検討もしない、そういうふうに捉えていいんでしょうか。

〔「休憩にしてください」と呼ぶ者あり〕

濱田洋一委員長

それでは休憩に入ります。

(休憩 午前10時47分～午前10時54分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

ほかに質疑ございますか。

竹原信一委員

私どもは、私はですね、今の進め方に疑問があるんじゃないかねえかと、問題があるんじゃないかという意味で、質疑をさせていただいているわけです。

最終的に説明されましたけども、趣旨とか目的みたいな話ありますけども、それを十分そしゃくして、実際、阿久根の教育にどうするのが1番いいかというのを考えられる。そして、それを市民の皆さんあるいは議会とも理解をした上で、1番子供たちのためにある方法はどうかという方法を今、模索してるところですよ。

その進め方について、ちょっと強引じゃないかという意味で質問させてもらったわけです。もう決めて方針を変えるつもりはないと言いながら、意見交換会というのはですね、非常に市民のほうも、親御さん達も何かすごく圧迫を感じてですね、変えるつもりはないのに何で俺たちに意見聞くんみたいなの、迷ったりもするわけですよ。

柔軟に変えるつもりがあるのかということと、本当に子供たちのこれから先、子供たちのためになる方法なのかっちゅうことをいつも模索していただきたいんですよ。迷いながらやっていたきたいんですよ。

よろしくお願いします。

濱田洋一委員長

御意見ですね。

〔竹原信一委員「はい」と呼ぶ〕

ほかにございますか。

山田勝委員

私はね、もうずっとこう基本に、1番大事なことは学校規模適正、これをしたとき、学校統廃合問題を受け止めて進めないかんということで私は受け止めてますよ、学校統廃合をですね。子供がおらんごとなればどげんしもできんたっでや。

みんないろいろ言うけど自分の子供、孫も家にいないで、いや反対、反対って言うけど、現実にね、もう今、田代小学校、尾崎小学校、そして鶴川内小ですか、ここはもう今年から統廃合することに決めてあるんですよ。

〔「いや、違う」と呼ぶ者あり〕

決めてないの。

濱田洋一委員長

山田委員、その3校についてどうなのかという質問でよろしいんですか。

〔山田勝委員「はい、どうなんですか、どうなるんですか」と呼ぶ〕

牧尾教育総務課長

今、教育委員会が示している計画でいけば、尾崎小と田代小は令和9年4月ですね、令和9年4月に阿久根小へ。鶴小とおっしゃいましたけれども鶴中が同じく令和9年4月、鶴小の場合は令和10年4月を考えております。

山田勝委員

認識不足でしたけどね、やっぱり現実を見つめないかんですよ、現実を見つめて。例えば田代小学校もない、それから尾崎小学校はもう本当に何人かの世界ですよ、尾崎小学校はですね。それは鶴川内小学校もあんまり変わらないです。

そういう中でですね、気持ちは分かるんだけどね、前向きに前向きじゃないか統廃合する方向であなた方の計画あるいはあなた方の思いをですね、父兄に何遍でも説明しながら理解を求めていく以外ないと思いますよ。

父兄のしがこう言ったら意見交換をして右にいく左に、こんなのじゃ私はいいと、子供のためになるとは思っていない。

だから、理解を求める理解をしてもらうために説明をしてですね、そして前に進めてほしいと思いますよ。自信を持ってやってください。

濱田洋一委員長

今の御意見ということでよろしいですかね。

〔山田勝委員「はい」と呼ぶ〕

ほかにございますか。

〔発言する者あり〕

ただいまの山田委員の御意見の中にですね、父兄というあれが出ましたけれども、保護者ということで訂正をということでよろしいですかね。

〔山田勝委員「父兄じゃいかんとや。よかど」と呼ぶ〕

ほかにございますか。

川原慎一委員

今それぞれの会場の御報告いただきましたが、それぞれの会場ですね、人数少なかったということでございました。人数は、数えていらっしゃいました。

あと、かつ、地域の方、保護者、割合的には地域の方のほうが多かったりするところもあると思うんですが、阿久根小学校みたいな中規模なところはどちらかというと、もう保護者のほうが多いというか、それでも少ないんでしょうけど、その辺りの人数をちょっと教えていただけたら。

中野教育総務課長補佐兼総務係長

2回目の学校ごとの説明会の人数を申し上げます。

まず、開催の順番で申し上げます。

山下小学校が7人、鶴川内小学校が4人、西目小学校が5人、阿久根小学校が2人、折多小学校が3人、大川小学校が5人、脇本小学校が5人。

それぞれの鶴川内、尾崎、田代小校区の地域住民の説明会ですが、鶴川内中校区が18人、尾崎小校区が18人、田代小校区が12人。以上です。

濱田洋一委員長

課長補佐、今の数字を言っていた三地区の方々以外の方は保護者だけですか、参加者は。地域は入っていないということですか。そこら辺を。

牧尾教育総務課長

今の人数の報告に補足して説明いたしますと、私の記憶に基づくものですが、各小学校で行った説明・意見交換会には、ほぼ保護者の方々でしたけれども、某小学校では、二つの学校において、お一方ずつ地域の方が入っていたと記憶しています。

地域を対象とした説明・意見交換会には、もちろん地域の方々がほとんどでしたけれども、鶴川内校区においては、保護者の方が1名いらっしゃったというふうに記憶しているところです。

川原慎一委員

私もPTA役員の経験者ですので、私が小学校に子供がいるときに、だいぶ前の統廃合のお話があったとき、やはり保護者が少なかったんですね。

どちらかというと阿久根小、阿久根中というのは、今回対等合併なんですけども、それすらの感覚がやっぱり保護者の方々、逆に言えば、来てくるほうやっで、別にこっちはあんまり腹も痛まんしってというような嫌いがあったんですね、あの当時は。

今回もこんなして阿久根小学校の2人っていうのは、やはりそういったことが出てるのかなあというふうにも思うところです。

なので、全部もう保護者にしたら、もうこのままいくんだらうなというようなお考えであるのが多数多いのかもしれない。だから、ここをどういうふうに私たち含めですね、やっていくべきかというところもあります。

鶴川内だったりなところに、これ、地域のところの説明会のときに、私も行こうと思うという傍聴の話をしたときに、その方に言ったら議員は来んでくれって、言うことが言いにくいって言われて、私行かなかったんですけど。

そういったこともあったりもいろいろして、広く意見を聞くという部分でですね、こういった会をしていただいてですね、やるっていうのは非常にありがたいことなので、やはり地域の方のほうが興味が高いということは、これは私、個人的な意見で言うと、ちょっ

と寂しいかなと思いますが、子供第1ということを考えれば、保護者の御意見というのは非常に大切ですし、そこをとにかく考えていってということで、教育委員会はよろしいですね。

濱田洋一委員長

川原委員は今、自分の御意見を話をされましたが、そのことについて課長答弁できますか。

牧尾教育総務課長

各地域における会においては、会場にいらっしゃった皆さん、区長さん方ももちろんいらっしゃいましたので、意見の取りまとめにおいては、保護者の方々の意見を現保護者あるいは、将来的な保護者の方々の意見を、どちらかという優先させていただきたいということは御理解いただいたところです。

あと、先ほどの人数のところで補足いたしますと、全小学校もちろん中学校も含めて、全世帯にどの会場でも参加可能というふうに案内してございましたので、必ずしも阿久根小が2人だったので、阿久根小からは2人だけということではないのかなと。確かに少ないような印象は受けておりますけれども、各会場にばらけているということも実際問題としてあるというふうに御理解いただければと思うところです。

牟田学委員

先ほどの各小学校の説明会に来られた人数は、もう本当の1桁で、保護者の方もですね、もうこれはしょうがないのかなあという考えだと思っております。

実際、私も折多小に3年生と2年生がいますけど孫が。2年生は6人ですもんね。再来年、もう1人折多小に行くんですけれども、そのときは今のところ2人ということで、もう本当にこれは、もちろん複式学級を考えないかとですけれども、実際もういないんですよ、生徒が。

だから、そこはやっぱりもう保護者の方も考えていると思っております。

だから、やはり統廃合はもうこれは避けて通れないし、もう今の人数をみれば、私らの頃は、僕の時80人おったんですね、1学年でですよ。

だから、再来年、今のところ2人っていうことを考えればですね、やはり子供たちの勉強をいろいろまた友達づくりを考えればですね、やはりこれはもう統廃合は仕方がないのかなというふうに私は思っております。

意見です。

川畑二美委員

ちょっとお尋ねしたいんですけども、学校ごとの広報はどのようにされたんでしょうか。2名とか阿久根が2名とか、各PTAの保護者の方だけに連絡されたんでしょうか、参加者が少ないということは。

改めてちょっとお伺いしたいんですけど。

牧尾教育総務課長

各小学校で、いつ会がありますというのを日程を示した文書で、全小学校、中学校の世帯に御案内いたしました。あわせて、地域の方々には区長を通じて区長放送していただくことを御依頼して、地域の方々には集まっていたいただいたということです。

川畑二美委員

確かに地域のほうは私なんかも参加させていただいて、皆さんのお話を聞いたんですけど

ど、小学校の部分ではちょっと私なんかも把握できてなかったもんですから、そういう点では、小学校・中学校の方々だけだった、ちょっと寂しいかなあって、もっとその辺もお聞きしたかったなっていう気持ちもありまして、今ちょっと質問させていただきました。

もっとその小学校・中学校も合わせて、防災なり、放送かけていただいたら、もっと保護者以外の方もその場所に参加されて、お話を聞く機会あったんじゃないかなって、再度、今、確認させて、思ったんですけど。

濱田洋一委員長

御意見ということですね。

〔川畑二美委員「そうですね」と呼ぶ〕

それとですね、課長から幾つかお話をされましたけれども、市報のほうにもですね、確か、日程等の記載もあったかと思うんです。

ですから、可能な範囲では今執行部のほうもやられているのかなあというふうに思いますけれども、また、さらにお気持ちを入れてお願いしたいという御意見ということによろしいですか。よろしいですかね。

まだ質問はありますか、される方いらっしゃいますか。

〔発言する者あり〕

まだたくさんありますか。2人ですか、3人、4人ですね。

それでは休憩に入ります。

(休憩 午前11時11分～午前11時22分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

再度、委員の皆様方をお願いいたします。

今、執行部に対して質疑でございますので、御意見があられる委員の方々はですね、後ほど御意見ということでお話いただければ結構ですので、質疑が終わってからというふうをお願いしたいと思います。

そして、先ほど複数の委員の方から御意見をいただきました。また、そのほかの方で御意見あられる方は、御意見の時間を取りますので、そのときに質疑をしてから意見ということでさせていただきますので、御了承のほどよろしくお願いします。

ほかに質疑ございますか。

渡辺久治委員

私もですね、鶴川内と尾崎と田代、参加させてもらってですね、こっちの学校のほうがすごい少ないということでしたけども、この三つはすごく参加者も多くて、席もですねもういっぱいでした。これはやっぱり皆さんもうすごく熱心に考えておられるなというのを感じました。

その中で、統廃合に関しては、統合することに関してはある程度致し方ないということはあるけれども、統合後の学校の在り方、施設の在り方、それから廃校にするのか、それとも休校するかということに関心があったと思います。

その辺を僕はすごく感じたんですけども、その辺は感ぜませんでしたかという質問。その辺の住民の方々の意向をどのように感じますか。

濱田洋一委員長

今の質疑で答弁できますか。

すいません、渡辺委員、先ほどのですね課長の冒頭の説明の中で、新たな取組としてそういった御意見がありましたので、利活用についても考えていきたい。また、廃校・休校についても取り組んでいきたい。いい方向にということで話をいただきましたけれども、そのことについてもう一度確認ということをしてほしいということですか。

渡辺久治委員

その方々の熱意についてどのように感じましたか。

牧尾教育総務課長

委員も感じられたように、私も地域の方々はあるだけ、数の問題じゃないんでしょうけれども、多くいらっしゃったこと。あと、発言される方の熱を帯びた御発言、そういったことはひしひしと感じましたので、そういったことから、冒頭の説明させていただいたように、また新たな取組として、休校と廃校の違い、廃校後はどういったことが考えられるということ、意見交換の会を設けて今取り組んでいるところです。

大野雅子委員

前回、別の議員から聞かれました、小学校の参加者の人数と校区の参加者の人数をお聞きしたんですけれども、やはり少ないなというのは感じました。

それで、前もって、できれば本当にみんなが思っていることをある程度集約できれば本当に1番いいなというのを、納得、みんな本当に校区の人たちもやっぱり子供たちのことを考えているんですね。

だから、本当は仕方がないと思ってるところも本当にたくさん皆さんいらっしゃいます。実際聞いてみても。皆さんの意見をちゃんと聞くっていうことで、アンケートというのはすごくいいんじゃないかなと、前、何か1回アンケートされたんですよね。あれはいつだったですか、教えてください。

牧尾教育総務課長

すいません、確かな記録はちょっと今手元にないんですけれども、記憶の中でお答えさせていただいてよろしいでしょうか。令和2年だったと記憶しております。

大野雅子委員

令和2年のときに1回、頂いて、私も見せてもらいました。

本当にたくさんの方の意見が書いてあって、やはり自分の意見を言える場があったということがすごくいいと思うんですね。またそれからずっと説明をしてくださって、考えもまた変わってきている人もいらっしゃるし、変わらない人ももちろんいらっしゃるし、でも意見を聞くっていうにはすごくアンケートというのはいいいんじゃないかなと私は思うんですね。手間がかかるとは思うんですけど、それを区長さんを通じてとか、教育、学校のほうを通じてとか一人一人提出できるようにしてあげると、自分の気持ちが伝えられるんじゃないかなと思うんですが、もう1回やってみるということは考えられないでしょうか。

牧尾教育総務課長

今、現在、先ほども答弁させていただきましたけれども、鶴中に関しては、4年生以上の方々を対象にアンケートを取っているところで、その中で学校統廃合全般の御意見もいただけるのかなというふうに感じているところです。

〔発言する者あり〕

濱田洋一委員長

ちょっと休憩に入ります。

(休憩 午前11時29分～午前11時30分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

牧尾教育総務課長

先ほど、大野委員に過去のアンケートについての答弁させていただきましたが、一部訂正させてください。

学校統廃合に関するアンケートではなく、学校規模適正化に関する調査でしたので。

中野教育総務課長補佐兼総務係長

学校統廃合に関するアンケートではなくて、学校教育基本方針に関するアンケートをとったところです。

大野雅子委員

続けて、今取られたアンケートは、地域の方も答えていらっしゃいましたけど、それと同じ内容だったですか。地域の方もアンケートから答えがきていたですよ。それを見ただけですけども私は。それも同じ質問だったですかね。

牧尾教育総務課長

過去におけるアンケートについては、地域の方々も同じ内容でとったところでした。

大野雅子委員

皆さんにとにかく周知することが必要だと思っているので、皆さんの意見を聞くことで皆さんも自分の意見が伝えられたということがすごく気持ちが落ち着くと思うんですね。なので、4年生以上の方にアンケートというので足りるとお考えでしょうか。

濱田洋一委員長

もう一度すいません。

大野雅子委員

今度はアンケートを取られるのは、4年生以上の鶴川内中学校に行く可能性のある方にアンケートを取るということを言われたと思うんですが、それで、皆さんに周知して、皆さんの意見を聞くというのは足りると思われませんか。

牧尾教育総務課長

4年生以上とあわせて、尾崎地区、田代地区、鶴川内地区の地域の皆さんにも、区長を通じて意見を取りまとめるように手配をしておりますので、市内全域ではありませんけれどもそういった、今、1番近いところに計画をしているところの校区については、意見をいただくというところで取り組んでいるところです。

大野雅子委員

アンケートという形ではないけれども、皆さんに取りまとめをお願いしてるということで理解してよろしいですかね。

はい、分かりました。

白石純一委員

先ほど、私も、会に出てきた方の意見は聞いたと。ただし今回、アンケートについては

まだ取っていないと。鶴川内中の方に、地区、そして小学校4年生以上の方にアンケートを考えているということでした。

そして、さきのアンケートが5年前ということで、大分また小・中学生の保護者、そして未就学児も含めて、大分、当然、人が入れ替わっているわけですね。したがって、5年経ったということで、やるべきではないかと私は考えています。そして若い方は、書くアンケートよりも、スマホのほうが確実に回答率は高まるはずです。

その辺りはお考えになられないですか。

濱田洋一委員長

白石委員。先ほど来、話をさせてもらいましたけれども、質疑をさせていただいてから御意見というのを述べていただければと思うんですが、今、言われたことにつきましては自分の意向はこうだと、この意向に対してどう考えるかということですので、意見という捉え方では、執行部も了承できると思うんですが、そのことについて述べよと言われても、どうかなと思うんですが。

白石純一委員

アンケートを再度、とり直すことはしないんですか。

牧尾教育総務課長

今、具体の計画はございませんし、やりますと明言はできないところですが、先ほど委員からも御提案いただきましたいろんな手法が現在、あろうかと思います。

そういったことも、我々も目的は多くの方々の意見を聞きたいということからもマッチするものと考えますので、そこは積極的に検討をしてまいりたいと思っております。

白石純一委員

折多小での説明会に当たりまして、折多小が来年からですね、来年から複式の可能性が高いというようなことは説明会では話されてますか。

牧尾教育総務課長

各小学校とも、全般的に統一した教育委員会の提案をするとともに、各学校に応じた現状に基づいて、今後の推移を示した表も用いながら、配布しながら説明をしているところです。

白石純一委員

折多小で推移表は見せたけれども、複式になることについての意見、質問はなかったということでよろしいんですか。

牧尾教育総務課長

今回、今回といいますか1番直近で2回、今年度2回目となる説明会で、特に折多小での意見では、地域の方も実は折多小はいらっしゃいました。その方は、過去において、PTAで積極的に活動される中で、もう数十年前から統廃合の話は出ていたと。折多小も将来的にはそうなるぞということを話していらしかったそうです。

そういった中で、御自身の持論といいますか、そういったのも伺ったところです。

複式になるという、その現状を基に、やはり将来的には、近い将来は脇本小に統合ということも考えられるんじゃないか、その先にはまた、阿久根市自体で一つになるんじゃないかというような、頭の中でシミュレーションもされていたように記憶しております。

白石純一委員

鶴中、尾崎小、田代小の校区、地域の方々を対象にされた説明会。これはもう学校の保

護者も実際おられない、ほとんどおられないわけですから、保護者というよりもやはり地域の問題でありますので、これは教育長より本来市長も加わって説明するべきではないかという考え方もあると思うんですが、市長が自ら出られるというような意思表示、あるいは、教育委員会から依頼をされることはなかったですか。

牧尾教育総務課長

そういったことのために総合教育会議もあって、市長部局とは共有を図りながら、取組を進めているところです。

それは、前提といたしまして、この年末に開催した3地域での説明会においては、廃校後の具体的なプランというのは持ち合わせない。むしろ、もっと言えば、それはまだ地域に対して、お示しするのは時期尚早ではないか、失礼に当たるんじゃないか、そういった気持ちの中で説明をさせていただきましたので、当然その結果的には、地域の方から、廃校後はどげんなっとよ、廃校後に我々、使がなったろかいというそういうような意見も頂戴したのは確かです。

なので、その時点でそういった話になりましたので今、また新たな取組を始めました。

ですので、年末においては、あくまでも保護者に向けている説明と同等のもので地域にも説明をさせていただいたものです。

白石純一委員

市長は出られなかったということ、また、その意図がなかったということは確認しました。

ただいま、総合教育会議で市長の意見が入っているということでしたが、この統廃合、学校規模適正化の基本方針を定めたときは、総合教育会議が開かれるべき総合教育会議が開かれておりませんでした。

市長の意見も取り入れるべき総合会議が開かれないうまま、この学校規模適正化方針が策定されたというのが過去の事実でございます。

したがいまして、総合教育会議があったから市長はなくてもいいんだということには、合理的にはならないと思いますが、その点いかがですか。

濱田洋一委員長

先ほど来、私も話をしていますけれども、今の質疑というのは、また違う観点での質疑というような捉え方になろうかと思うんです。

ですから、例えば今言われた質疑については、一般質問等で、その旨、こういうことだったけれどもどういうことかというのをお聞きされたほうがよろしいかと思うんですが、よろしいですか。

〔白石純一委員「はい、分かりました」と呼ぶ〕

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ほかにないようですので、以上で質疑を終わります。

〔教育総務課及び学校教育課退室〕

委員の皆様方に、私から提案というかさせていただきたいと思いますが、今、調査特別委員会を開催している中で、それぞれ御質疑そして同じく御意見をいただいております。

今ですね、この3地区、いわゆる3校区ですね、鶴川内中学校校区、田代小、尾崎小、そしてほかの小学校と所管課が意見交換会等をやりながら進めて、取組を進めております。

それをもって、この委員会で皆様方に質疑をいただいたり、御意見をいただいたり、というふうになっておりますけれども、やはり先ほどありましたけれども、4月もしくは5月にですね、3校区の方々の地域の方々、もしくはPTAの方々の御意見等がまとまるということでしたので、そのときにまとまった時点でですね、もう一度所管課に来ていただいて、そのことに対する質疑、そして御意見、そして討議をですね、この委員会でさせていただきたい。そのような方向が望ましいのではないかと考えるんですが、今日のこの委員会の中では主に質疑をさせていただきました。

そして、それぞれ御意見のある方は御意見をいただきましたので、次回、意見もしくは討議をですね、それぞれの思いを討議をしたいと思うんですが、その中で、次回でそういうふうに進んで行きたいと思うんですが、そのような方向でお願いしたいと思いますが、どうでしょうか、それでよろしいですかね。

〔「それでお願いします」と呼ぶ者あり〕

いいですかね。

白石純一委員

今日の質疑を踏まえての意見は意見として、やはり聞きたいと思いますし、それが今後、各地域の方々が出されることにも、少なからず影響を与え得ることもありますので、今日の質疑に対する意見は、皆さんの分はちょっとお伺いしたいと思います。

濱田洋一委員長

それでは、御意見があられる方はどうぞ。

高崎良二委員

先ほど質問にもあったんですが、小規模校を1校残すということに関して、まだ検討も何もしないということだったんですが、私個人の考えとしては、小規模校を1校残す方向で検討していただきたいというのがあります。

そこはきっちり検討を進めてもらいたいというのが、多分ほかの皆さんもそういう意見があると思うんですが、そこら辺は、伝えてもらえないのかなというのが一つ。

一つは、各学校には学校運営委員会という委員会があります。その中の意見も聞いてみたらどうだろうかという意見です。

白石純一委員

今、高崎委員がおっしゃられたとおりですね、私は1校に限らず、2校以上でも必要であれば残すべきだと思っています。

皆さんも恐らく同じように、あるいは地域の方も保護者の方も、いつかこの人口減少の社会にあってですね、今の休校が全て永久に残るということはないというのは多分分かっていらっしゃると思います。ただし、それがいつになるのか。それはやはり地域の方々が納得して、保護者そして地域の方々が納得して、地域から休校にしてくれ、廃校にしてくれという意見が出るのが望ましいものであって、教育委員会が強引に、意見交換会という名のもとに、納得させるための実情はですね、会を強引に進めているように、市民にそのように映っているからこそ反感を覚える市民もおられるのであって、もう少し丁寧にですね、このプロセスを進めるべきだということが私は民主主義の鉄則だと思いますので、その辺りをぜひ皆さんと一緒にこれから考えていきたいと思っています。

木下孝行委員

意見というか、今後の先ほど委員長の方向に関して、そのような段取りで行ったほうが

私もいいなとは思っております。

あくまでいわゆる教育委員会が住民説明、保護者説明等行う中で、ある程度の報告は次の4月か5月に最終的なものをもらうわけで、その報告を聞いた上で、議員間で討議を行い、統廃合、今の教育委員会の考えどおりにやる意見。小規模校1校残す、2校を残す、それとも全部、今のままでそのまま統廃合せずに行く。いろんな各個人の議員の意見があるだろうと思いますけども、そこは今後、討議をしながら、ある程度、委員会としての結論を決定を出して、教育委員会に決定を伝えて、後は教育委員会が我々委員会の決定の下に方向を決定すると、そういう流れになるだろうと思いますんで、ぜひとも今後、4月、5月の報告まとめを聞いた後にですね、委員間の討議をして、ある程度結論を出す方向、1回で収まるのか2回で3回しなきゃいかんか分からんけども、そういう形でぜひ進めていただきたいと思います。

濱田洋一委員長

ただいまの木下委員の御意見に関することでございますが、先ほど執行部からもありましたとおり、田代小学校、尾崎小学校、鶴川内中学校の保護者や地域の方々の御意向というのがですね、4月末から5月にかけて、まとめていただいたものが執行部のほうに出てくるということでございましたので、その後、恐らく私のほうで後ほどといいますか、調整させていただきますけれども、日を改めまして、この委員会を開催してですね、まずはこの田代小、尾崎小、鶴川内中、このことについて、地域、何回も言いますが保護者の御意見が出てきますので、そのことに対してある程度方向づけを、やはりこの委員会ですていく。

それから、先ほど各小学校のことについても、最終的なことについてはいろいろまた2回3回議論をさせていただいて、委員会をさせていただいて、方向づけをしていかなければいけないと思っておりますので、その辺の御理解をいただければありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、繰り返しになるかと思いますが、今後の調査方法について協議していただきます。

所管課から説明がありましたとおり、田代小学校、尾崎小学校、鶴川内中学校の保護者や地域の方々の御意向は、4月末から5月にかけて教育委員会に回答されるとのことでございます。したがって、次回以降の調査については、3地区の御意向の回答があった後に、所管課に説明していただき、質疑を行うこととしたいというふうに思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

所管課に出席を求めての委員会の開催日時は、委員長において調整したいと思っておりますので、一任願いたいと思っております。

御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

調整ができ次第、皆様方にお知らせいたします。

それでは、以上で本日の学校規模適正化調査特別委員会を散会いたします。

(散会 午前11時53分)

学校規模適正化調査特別委員会委員長 濱 田 洋 一